

第11回 連続講座

共生フォーラムセミナー

2/12

(土曜日)

開場 14:00 開始 14:30 ▶ 16:30

会場：西区地域福祉センター3階大会議室

参加資料代：500円(正会員・学生・障がい者無料)

主催：NPO 法人共生フォーラムひろしま

後援：広島市・広島市教育委員会 (申請中)

～多文化共生社会を考える～

コロナ禍の外国人労働者は今

土屋信三さん (スクラムユニオン・ひろしま)



プロフィール

スクラムユニオン・ひろしま執行委員長。スクラムユニオン・ひろしまの前身は西部リサイクルプラザで結成された労働組合。さまざまな闘争と試練をくぐり抜け、2001年に事業主が組合つぶしを仕掛け、組合員および組合員と疑われた労働者全員の継続雇用を拒否した。これに対抗し、ピケットストライキを決行。以降、地域ユニオンとして活動を始める。名称もスクラムユニオン・ひろしまとし、名実ともに企業内組合から地域ユニオンの道を歩み始めた。労働者の権利を守り、人間らしい生活を送っていくことのできる社会をめざして奮闘中。

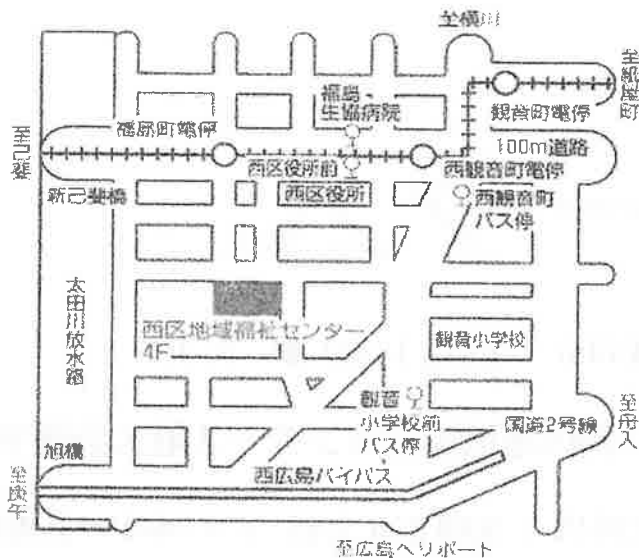
14:30 主催者あいさつ

14:35 「コロナ禍の外国人労働者は今」 土屋信三さん

(休 憩)

15:45 質疑 ・ 意見交換

16:30 終了予定



西区地域福祉センター

〒733-8535 広島市西区福島町2-24-1

TEL:082-294-0104 FAX:082-291-7096

問い合わせ先

特定非営利活動法人共生フォーラムひろしま

733-0024 広島市西区福島町一丁目6番2-406号

☎ 070-3771-9235 (法人事務担当)

Email: kyousei.fh@gmail.com

HP: <https://kyousei-h.jimdofree.com>

Blog: kyousei-hiroshima.blogspot.com

日本語ができれば、可能性が広がる——。海外から訪れる技能実習生の日本語教育に力を入れる人たちがいる。「少しでもよい生活が送れるように」。単身、故郷を離れた彼らの将来を見据え、実習生と歩む。



早朝5時に広島市を出発したグレーのワンボックス車は、師走の高速を関西空港へ向かう。建設会社の社長、須山隆文さん(68)が同業の社長と2人で交代しながらハンドルを握る。4時間半のドライブで空港に着き、到着ロビーで2時間ほど待たせようか。須山さんの携帯が鳴り、若者たちが現れた。

レ・ヴァン・チャン・ヴィエットさん(25)ら男性4人。ベトナムから来た技能実習生だ。広島市内のホテルへ4人を送り届けた。コップなどの生活用品と一緒に、タブレット端末を1台ずつ渡す。2週間の隔離生活の間、日本語の講習を受けてもらうためだ。「建設業は現場で多数の人と共同作業をする。コミュニケーションがとれないと、もめ事が起きる」。須山さんは、実習生の日本語教育に力を入れている。



須山さんは建設会社「愛晃」の社長で、広島県外壁補修工事業協同組合の理事長でもある。業界の人材不足もあり、組合は15年ほど前からベトナムや中国、スリランカの技能実習生計60人以上を受け入れてきた。実習生の受け入れ窓口となる「監理団体」の許可も得て、2月1日現在、7社でベトナム国籍の18人が働く。



技能実習生を受け入れるのは、愛晃のような企業ばかりではない。

外国人労働者の相談にも乗る広島市の労働組合「スクラムユニオン・ひろしま」の土屋信三委員長(69)は、日本語教育に力を入れる監理団体は「少ない」と話す。「先輩と母国語で会話することも多く、日本語が上達しない。日本社会とのつながりはほとんどないという実習生が多い」(朝日新聞2021年2月3日)

新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応について

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、セミナーを中止する場合には、遅くとも一週間前にはホームページに掲載し、メールでもお知らせします。また、実施に際しては広島市の基本方針に則った対策を実施します。何とぞご理解いただきますようお願い申し上げます。